

2022年2月22日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2022年1月 マンスリー レポート

集計企業数 50 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	61,258,009 万円	100.0%	99.2% (99.4%)	59,698,234 万円	98.2% (98.3%)
食 料 品	52,942,178 万円	86.4% (85.6%)	99.3% (99.6%)	51,501,218 万円	98.0% (98.3%)
農 産	7,852,992 万円	12.8% (12.2%)	98.4% (100.3%)	7,644,494 万円	97.2% (99.1%)
水 産	5,110,036 万円	8.3% (7.8%)	99.0% (98.9%)	4,972,407 万円	97.7% (97.5%)
畜 産	7,104,248 万円	11.6% (11.5%)	98.0% (98.3%)	6,904,878 万円	96.6% (96.9%)
惣 菜	6,400,252 万円	10.4% (10.4%)	105.5% (105.1%)	6,198,120 万円	103.7% (103.2%)
日配食品	11,743,607 万円	19.2% (19.3%)	98.8% (99.1%)	11,430,702 万円	97.5% (97.9%)
加工食品	14,731,044 万円	24.0% (24.5%)	98.4% (98.3%)	14,350,617 万円	97.4% (97.4%)
生活関連	3,715,456 万円	6.1% (6.1%)	97.5% (96.4%)	3,629,399 万円	97.0% (95.9%)
衣 料 品	1,400,986 万円	2.3% (2.8%)	98.3% (97.8%)	1,384,377 万円	100.4% (99.3%)
そ の 他	3,199,389 万円	5.2% (5.5%)	100.8% (99.8%)	3,183,241 万円	101.8% (100.6%)

② 数 値

全店総売上高	61,258,009 万円	店舗数	5,015 店舗
総売場面積	10,019,820.9 m ²	総従業員数	280,087 人

店舗平均月商	12,215.0 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,154.4円 (100.5%)
月間m ² 売上(前月)	6.1 万円 (7.2万円)	平均売場面積	1,998.0 m ²
月間坪売上(前月)	20.2 万円 (23.9万円)	パート比率(前月)	77.2% (77.0%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ◆ 天候について
 - ・ 気温は、東日本で低く、沖縄・奄美地方で高かった
 - ・ 降水量は、北日本の日本海側でかなり多かった
 - ・ 日照時間は、西日本の日本海側でかなり多かった
- ◆ 土日祝日の日数について
 - ・ 土日祝日の日数は前年と同じであった
- ◆ 新型コロナウイルス感染状況
 - ・ 年末年始にかけてのオミクロン株による感染拡大のため、9日に沖縄、山口、広島の3県にまん延防止等重点措置が発令、21日には16都県、27日は34都道府県まで拡大した。中旬には全国新規感染者数が3万人を超え、月末ごろには8万人を超えた。感染対策の認証を受けた飲食店に対しても知事の判断で酒類の提供を停止できるようにするなど重点措置の内容が強化された
- ◆ 商品動向全体
 - ・ 年始は、帰省客が回復した地域ではオードブルや寿司などごちそうメニューが好調で、大型パックの動向がよいとのコメントがみられた。一方、まん延防止等重点措置の発令を受けて、中旬以降、内食需要の拡大で生鮮食品が好調になったが、昨年を超える伸びはみられなかった。原料高騰による値上げがあったコーヒーや小麦製品は、企業によって好不調が分かれた。惣菜や冷凍食品などは引き続き好調であった

《 商品動向 》

○農産

- ◆ 相場状況（卸売価格）
 - ・ 野菜は、たまねぎ、じゃがいも、レタス、トマトが高値であった。一方でだいこん、にんじん、キャベツ、ねぎが安値で推移した
 - ・ 果物は、国産・輸入ともに高値で推移。国産ではみかん、りんご、いちごが高値であった。輸入果実ではバナナが高値で推移した
- ◆ 商品動向
 - ・ たまねぎやじゃがいもなど土物類は好調であった
 - ・ きのこと類、だいこん、はくさいなど鍋物商材は低調であった
 - ・ バナナやキウイなど輸入果実は好調であった。みかん、いちごは低調であった

○水産

- ◆ 相場状況（卸売価格）
 - ・ 水産物全体では、前年に比べて高値で推移した
- ◆ 商品動向
 - ・ 刺身の盛り合わせや水産コーナーの寿司が好調であった
 - ・ ぶりは好不調が分かれた

○畜産

◆ 相場状況（卸売価格）

- ・ 和牛、国産豚は、前年に比べて高値で推移した

◆ 商品動向

- ・ 和牛や国産豚が好調であった一方、輸入牛、輸入豚、輸入鶏が不調であった
- ・ 牛しゃぶしゃぶ用、すき焼き用が好調であったとのコメントがみられた
- ・ ひき肉は低調であった

○惣菜

- ・ 帰省需要が回復した地域では、オードブルや寿司などの大型パックが好調であった
- ・ 内食需要の拡大により、米飯類、おつまみ関連商品が好調であった

○日配食品

- ・ 冷凍食品やデザート、鶏卵、チルド麺が好調であった
- ・ 納豆、乳製品は昨年の反動で低調であった
- ・ 漬物は低調であった

○加工食品

- ・ 飲料、簡便商品、ノンアルコール飲料が好調であった
- ・ 米は引き続き低調であった
- ・ 値上げのあったコーヒーや小麦製品は、好不調がわかれた

○「年始営業日」「初売り」の動向について

- ・ 年始営業日について、「2日から営業」の企業がもっとも多かった
- ・ 帰省客が回復した地域では、オードブルや寿司などの大型パックが好調であった
- ・ 三が日休業した店舗では、通常品が好調であった

○恵方巻の予約状況について

- ・ 予約状況は全体的に前年を上回る状況であった。昨年の当日販売において早期売り切れが発生したことの反動とみられる。食品ロスの一環として予約を強化した企業もみられた
- ・ ハーフサイズが好調であったとのコメントがみられた